

12月31日のウクライナ情報

安齋育郎

●ゼレンスキー、ダボス会議に参加予定(2022年12月28日)

12月28日、ウクライナのヴォロディミル・ゼレンスキー大統領の政府が、2023年1月にダボスで開催される世界経済フォーラム(WEF)への参加を準備しており、ロシアとの戦争後の再建努力に関して、ブラックロック社の CEO ラリー・フィンク氏と交渉していることが明らかになりました。

ブルームバーグによると、ゼレンスキー氏は国民に向けた夜の演説で、“この会社の専門家はすでに、ウクライナの家再建のための資金構成を支援している ”と述べたという。



●米陸軍退役大佐ダグラス・マクレガー氏、ウクライナ資金の流れと崩壊寸前のドンバスにいるウクライナ軍(2022年12月28日)

日本語字幕付き(※シアター=戦場)

<https://www.youtube.com/watch?v=puY66efmCGE>



●ウクライナ軍、バフムートへの部隊の移送により他の前線が弱体化 NATO 援軍の可能性は？(原伸一、2022年12月27日)

<https://www.youtube.com/watch?v=j2mz1uffD1k>

これがどういうことなのか、まずは以下、リバールの記事を要約/編集してご紹介します。

【バフムートの最前線でウクライナ軍は兵士が不足しています。肉挽き器で、ウクライナ軍は10日間で 1000 人以上を失いました。右は、包囲された都市の病院の裏庭の写真。死傷した兵士が着ていた軍服が山積みになっています。ウクライナ軍の損失は本当に大きいです。



ワグネル本部が傍受した無線データ情報の開示により、大きな損失が証明されています。

●トランプ大統領のメッセージとタッカー・カールソンの問題提起 ～ アメリカはどこに向かっている？(2022年12月28日)

<https://youtu.be/D1GNN2zQF2Y>



●ロシアはウクライナとの和平交渉に臨まず、戦争継続へーラブロフ外相(ブルームバーグ、2022年12月29日)

ロシアのラブロフ外相は、ウクライナでの軍撤退が相次ぐ中でもロシアが戦争終結に向けた交渉に入る意向はないと表明した。

同相は国营通信社RIAノーボスチが29日配信したインタビューで、政府はウクライナが要求する占領地からの撤退および賠償金の支払いについて協議しないと述べた。

ラブロフ外相は今週に入り、プーチン大統領が命じた2月24日の侵攻後にロシアが併合した地域の主権をウクライナは委譲する必要があると主張していた。

プーチン大統領は9月、ウクライナ東部・南部4州のロシア併合は不可逆的だと述べ、併合文書に署名。国連はこれについて違法だと非難している。

プーチン氏、ウクライナ領の併合文書に署名ー「恒久的」と主張

欧米の武器支援を受けているウクライナ軍はロシア軍からの領地奪還を着実に進めているが、戦争は来年もしばらく続く可能性がある。

ロシア軍は 29 日もウクライナ全土に大規模なミサイル攻撃を加え、引き続きエネルギー関連などインフラ施設の破壊を狙った。



●ゼレンスキーの「平和の公式」(2022年12月30日)

【ゼレンスキーが提唱した『平和の公式』】

- ①ロシアは東部と南部の四州及びクリミア半島をウクライナに返却する
- ②ロシアの返却と撤退に NATO 軍が立ち会い、平和を監視する

【セルゲイ・ラブロフ】「ロシアは、ゼレンスキーが提唱した『平和の公式』に基づいて、誰とも話さないだろう」

※ツイッター・コメント:★道化師の大風呂敷を相手にしても何も解決せんわいな。ゼレンスキーが辞めんと話は出来んやろな。

●キエフ提案の平和サミットについてのザハロフ報道官のコメント(2022年12月29日)

ザハロフ報道官は木曜日のブリーフィングで:2月24日の国連自由貿易地域開始記念日に、国連でキエフ当局が開催を提案している「平和サミット」について「妄想であり、ワシントンによる PR キャンペーンである」と述べた。

彼女によれば、米国はキエフ政権を平和主義者として描こうとしているのだという。



●プーチン—習近平会談の予定(2022年12月29日)

プーチン大統領と習近平主席が金曜日に電話会談を行い、ロシアと中国の二国間関係について話し合う予定。最初の部分のみ公開される。

ペスコフ報道官「貿易量の急増はご存知の通り。喫緊の問題についての意見交換は重要である。ロシアに近い事あれば、中国に近い事もある」。



●防衛費の増額への自衛隊関係者のコメント(2022年12月29日)

[来年度から5年間の防衛費を、従来の 1.5 倍にあたる 43 兆円に増やす計画を政府が決定した。歴史的な増額を自衛隊の関係者は歓迎しているかと思いきや、海上自衛隊現場トップの自衛艦隊司令官を務めた香田洋二さんは「身の丈を超えている」と警鐘を鳴らす]。



● 29 日、ウクライナ軍の地対空ミサイル S-300 が ベラルーシ領内に落下したとベラルーシ国営通信ベルタが報じた。

落下の原因は現在確認中。2 つの説が検証されている。

1. 前回のポーランド領へ落下したのと同様。
2. ウクライナ軍のミサイルはベラルーシのミサイル防衛システムに撃墜されベラルーシ領内に落下した。



●プーチン大統領;ロシアはミンスク合意で「だまされた」と述べた(2022年12月28日)

ロシア連邦のウラジミール・プーチン大統領は、現場の当事者がミンスクで署名された合意を尊重していないことを強調している。

ロシアのウラジミール・プーチン大統領はウクライナ情勢について、「ロシアは和平協定を望んでいたが、我々はだまされた」と述べた。

プーチン大統領は記者会見で、「私たちは皆、耐え、耐え、耐え、何らかの和平協定を望んでいたが、今は鼻先に導かれているだけだ」と語った。

<http://eritokyo.jp/independent/Ukraines-war-situation-aow2250.htm>

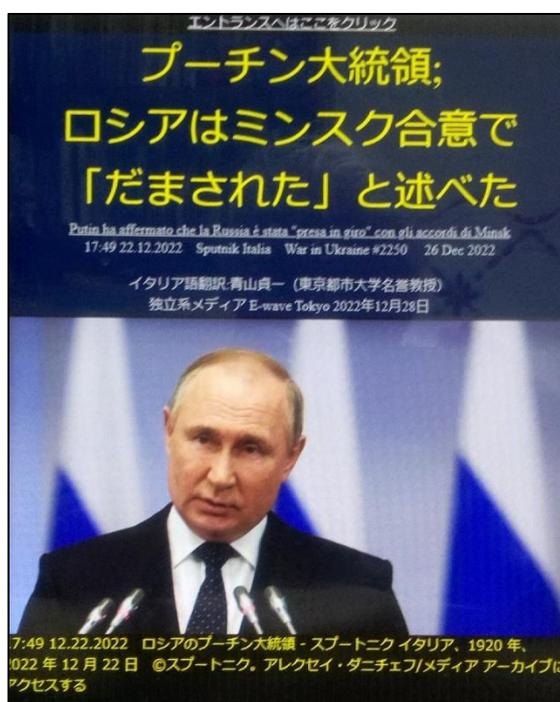
※安齋注:この URL を開けると、次の二つの参考資料があります。

①ウクライナ危機を回避するための「ミンスク合意」の履行とは何か？

解説:池田こみち 2022年1月30日

②ミンスク合意ドンバスの大量虐殺はなぜ止まらなかったのか

翻訳:池田こみち(E-wave Tokyo 共同代表)



●ロシア軍の戦果(2022年12月26日)

以下は過去のロシア軍の戦果

- ※ 352 機の戦闘機。
- ※ 192 機のヘリコプター;
- ※ 2,719 台の無人航空機。
- ※ 399 対空ミサイルシステム;
- ※ 7,222 両の戦車とその他の装甲戦闘車両。
- ※ 936 個のロケットランチャーの設置。
- ※ 3,704 門の野砲と迫撃砲。
- ※ 軍用車両の 7,737 の特殊部隊



●漁獲割当量は前年より 2 万 5000 トン削減される(2022年12月)

ロシア漁船の操業条件

サバ 4 万 t(-5 千 t)、マイワシ 8 千 t(-2 万 t)、イトヒキダラ 2 千 t(-8 千 t))

日本漁船の主な操業条件

サンマ約 3 万 1 千 t(約-2 万 4 千 t)、スルメイカ 5 千 6 百 t(前年同)、マダラ 3 千 2 百 t(-1 千 6 百 t)



●EU を揺るがす欧州議会の汚職(日経ビジネス、2022年12月28日)

欧州議会の現職副議長や元議員ら関係者数人が、カタルからの収賄容疑で逮捕・起訴された。一般になじみのない議会の醜聞であるため派手に報じられたが、これで EU が芯から腐敗しているのを見るのは早計だ。だがウクライナ支援で欧州が団結し、ハンガリーの腐敗に制裁を加えたタイミングでの事件は EU を傷つけかねない。

「欧州議会が一番見覚えのある議員は誰？」という質問は、ジョークのネタのように聞こえる。「ボリス・ジョンソンの物まねをする人で一番きちんと服を着ているのは？」との質問に似たたわいのない冗談だ。

ところが今、このジョークに本当のオチがついた。答えはエバ・カイリ氏。同氏は 2022 年 12 月初めまで欧州議会の副議長だったが、12 月の半ばにその地位を失った(心配ご無用。副議長はあと 13 人いる)。ギリシャ選出の欧州議会議員であるカイリ氏は、約 60 年に及ぶ欧州連合(EU)諸組織の歴史の中でも恐らく最悪の醜聞により、一躍顔を知られるようになった。

12 月 9 日、ベルギー警察が収賄と資金洗浄の容疑で 6 人の欧州議会関係者を逮捕し、うちカイリ氏を含む 4 人を起訴した。カタルから贈られたとされる 150 万ユーロ(約 2 億 1000 万円)を超える現金も押収した。警察は 20カ所で家宅捜索を行なった。大半は、欧州議会の現職議員や元議員とそのスタッフに関係する場所だ。元ニュースキャスターのカイリ氏と、同氏の私生活でのパートナーでもあるイタリア人の欧州議会補佐官の 2 人は現在、ブリュッセルで収監されている。この 2 人もカタル政府も、不正を否認し、容疑には「根拠がない」としている。

カイリ氏の父親も、現金の詰まったスーツケースを議会近くのホテルから運び出しているところで逮捕されたが、従犯にすぎないとして釈放された。

捜査はまだ続いており、ベルギーのブリュッセルとフランスのストラスブールは、緊張と混乱と憤りに包まれている(ブリュッセルに拠点を置く欧州議会は、奇妙なことに月に 1 度ストラスブールで開催される)。

汚職の種らしきものを示唆する状況は存在する。カタルは国民が欧州にビザなしで短期滞在できるように望んでいる。多くの先進国に認められている特例措置だ。カタルにも 12 月にはこの措置が認められるとみられていたが、凍結された。

また、カタルはサッカーのワールドカップにからむ移民労働者の扱いへの批判を和らげようとしていた。そしてカイリ氏は、カタルは「労働者の権利に関して先頭を走っている」と、欧州ではあまり同意する者のない意見を表明していた。また、カイリ氏が所属する中道左派の政治団体も、カタルを非難する動きを抑えるべく働いた形跡がある。

19 年まで欧州議会議員を務めたピエール・アントニオ・パンツェリ氏も逮捕された。同氏は現在「ファイト・インピュニティ(免責と戦う)」という非政府組織(NGO)の代表を務める(同氏にコメントを求めることはできなかった)。

逮捕者への容疑が事実だったとして、それは EU が芯から腐っている証拠なのだろうか。そんなことはないだろう。

欧州の組織では 6 万人以上が働く。欧州議会だけでも 1 万人ほどいるのだ。どんな政治システムでも悪事を働く人間はいる。米国では、ある議員がロビイストと面談した直後に、その議員宅の冷蔵庫から 9 万ドルの現金が見つかったことがある。フランスの過去の選挙については、資金の出所を尋ねないに越したことはない。英国議会の議員が、公費の支出について冗談のようなごまかしをした揚げ句に、メディアに不正支出を暴露されたこともあった。こうした事例は枚挙にいとまがない。



欧州議会の副議長を解任されたエバ・カイリ氏

●ロシア兵の思い出(2022年12月28日)

私が出会ったロシア人のほとんどは、とてもいい人たちでした。しかし、イギリスとロシアの緊張が高まる中、私は今スコットランド人だと言っています。(先日、列車のレストランの車内でロシア兵と醜い争いをするところだった...。

スコットランドはドンバスを爆撃するために武器を供給しているのか、と言ってきた。彼の女性は彼を引き離し、それがどこに向かっているのか、私よりも先に察知した。ロシアが英国人を殺すために武器を供給しているのなら、英国人兵士とロシア人の間で違いはないだろう。

この戦争で最も悲しいことの 1 つは、国家間の憎しみを生むことです。人は、国籍ではなく、人格で判断されるべきです。

また、ドゥギンの言うとおりに、欧米ではロシア人、イラン人、中国人に対する人種差別が拡大し、受け入れられています。私のロンドンの友人たちを見てもそうです。これは世界が向かっている方向だ...。

ちなみに、ロシア兵に嫌な思いをさせられたのはこれが初めてです。他はとても礼儀正しい人たち

ばかりです。

※安齋注:この議論は、この投稿をきっかけに延々と続いています。

●フランスの薪小切手(2022年12月)

フランス地元メディアの報道によると、電気料金の値上げにより、住民に薪の引換券が配られるようになったという。

市民は12月27日から50ユーロから200ユーロの小切手を受け取ることができる。薪で暖房しているフランス在住者のみに発行される。



●ウクライナのハッカーによる対ロ活動支援(2022年12月28日)

ロシアのシロモロトフ外務次官は「ウクライナのハッカーによる悪意ある対ロシア活動の支援は、欧米の多国籍 IT 企業によって行われている」と語り、8月に英国政府通信センター・フレミング所長がウクライナ支援のために大企業を調整する重要な役割を果たしたデータを紹介した。

また、ファイブアイズの情報機関にサービスを提供しているオーストラリアの IT 企業 Internet 2.0 は、今年12月6日にウ当局とキエフに支店を開設する覚書を締結した。

「ロシアへの対抗を口実にしたハッカーの専門教育が目的だ」と次官は説明した。

